

第46回日本分子生物学会で

「科研費研究を最先端の技術で支援」テーマに 生命科学連携推進協議会がセミナー開催

12月6日から8日まで開催された第46回日本分子生物学会（神戸国際会議場）では、多くの研究発表が行われたが科研費を取得している生命科学分野の研究者の研究を支援するイベントも同時に開催された。

生命科学連携推進協議会は7日午後から、「生命科学4プラットフォームによる最先端技術支援説明会」として、「あなたの科研費研究を最先端の技術で支援します」をテーマに4分野の支援プラットフォーム活動を紹介。

座長は、武川睦寛教授（東京大学医科学研究所基礎医科学部門）が務め、武川氏のほか、5人の研究者



質疑応答の様子

析研究推進プラットフォーム」については国立遺伝学研究所の森宙史准教授、「コホート・生

体試料支援プラットフォーム」については東京大学医科学研究所の村上善則教授、「先端モデル動物支援プラットフォーム」

宮啓之部長が紹介した。武川教授は、生命科学連携推進協議会は文科省の支援のもと令和4年度よりスタートし、6年間をメドに活動することなど協議会の

術を活用するためにどうすればいいのか、若手研究者の育成や学術研究の発展のために積極的な活用を呼びかけた。

森氏は、「相談していただけでは全国のどの機関でどのような解析をするのがベストだとアドバイスもさせていただく」と話し、何でも聞いてほしいと語った。

真野氏は、例えば光学顕微鏡1つでも色々な使い方ができ、それぞれの研究にあった提案やノウハウも提供できるとし、「情報工学など異分野の研究者の協力を得ることもできる」と相談のメリットについて説明した。

が各プラットフォームを紹介した。

「先端バイオイメージング支援プラットフォーム」

については基礎生物学研究所の阿形清和所長と真野昌二准教授、「先進ゲノム解

析研究推進プラットフォーム」については国立遺伝学研究所の森宙史准教授、「コホート・生体試料支援プラットフォーム」については東京大学医科学研究所の村上善則教授、「先端モデル動物支援プラットフォーム」

武川教授は、生命科学連携推進協議会は文科省の支援のもと令和4年度よりスタートし、6年間をメドに活動することなど協議会の

宮啓之部長が紹介した。武川教授は、生命科学連携推進協議会は文科省の支援のもと令和4年度よりスタートし、6年間をメドに活動することなど協議会の